

タイトル：平成 30（2018）年度 教育セミナー（第 14 回）

日時：2018 年 9 月 13 日（木）～16 日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室（303）

三橋 咲歩（奈良女子大学大学院 人間文化研究科）

他大の院生と議論や交流できる場が欲しいと常々考えていたところ、たまたま今回の中東☆イスラーム教育セミナーの存在を知り、緊張しつつもワクワクしながら初めて参加しました。セミナーに参加できて良かった！と思ったことを 3 点ほど述べたいと思います。

1 点目は、学問分野の異なる学生や先生方と、イスラーム研究について議論できる場に参加できたことです。普段、ゼミは先生と一対一か、西洋史や日本史の学生と合同であることが多く、発表でも議論でも、常にイスラームになんの馴染みもない人を相手に話をしなければならない、ということがほとんどなのですが、このセミナーでは、学問分野は違えど一応イスラーム研究という共通の素地があったので、研究内容そのものに対しても、研究の進め方に対しても一歩踏み込んだ話を聞くことができ、とても勉強になりました。

また、私は歴史学を専攻しているため、他分野の学問について聞く機会も少ないのですが、今回のセミナーでは、歴史学よりも文学、人類学、現代政治などについての議論の方が多く、しかもそれを同年代の学生の発表や、先生方のご研究に基づいた講義という形で聞くことができたので、大きな刺激になりました。

2 点目は、研究をどのようにして進めていくかという過程の一部を見ることができたことです。発表や講義はそれだけでも有意義なものでしたが、それに対する質問・コメントでは、リサーチ・クエスションの立て方、理論の利用の仕方、また自身の研究を学問全体の中にもどく位置付けていくのかといったことまで突っ込むものが多い印象があり、やりとりを聞くだけでも勉強になりました。講義の中でも、研究者が何に関心を持ち、それをどのように形にしていくかという話を聞くことができ、自分の研究の問題点や課題に関して参考になることばかりでした。

3 点目は、こうした真面目な発表・議論の場以外に、休憩時間やセミナー後の懇親会で研究のことはもちろん、それ以外のことについても先生方と直接お話しする機会があったことです。歴史学以外の分野の先生方ともお話しできる機会はなかなかないので、貴重で楽しい時間でした。また、同じ学生同士で情報交換をしたり、自分の研究について気軽に話したりできたことも大変楽しかったです。

最後になってしまいましたが、今回のセミナーのために時間を割いてくださった先生方、裏方でセミナーを支えてくださった千葉さん、受講生の皆さん、本当にありがとうございました。